

發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 常磐每日新聞社
福島縣石城郡平町字長橋町五番地
常磐每日新聞社

定価
一月五元
三月十元
半年十八元
一年三十元
郵費別計

常磐新聞
刊夕日四十月七

常磐文藝

高月會
カタツムリ

草の丘やカタツムリ這へる
高籬 耕影
井端會議桶のカタツムリ笑
ひけり 同
今日も亦雨の書院にカタツ
ムリ 不染
雨に暮るゝ野寺の縁やカタ
ツムリ 同
雨七日厨の窓のカタツムリ
松村 雙石
雨止んで角に力やカタツム
リ 同
カタツムリが角一パイの天
地かな 大北
カタツムリや處士召される
ど爐を出でず 雪村
カタツムリや古き碑クワト
の文字 牛玉
カタツムリや仁王の門に何
の文字 同
庭土に水苔青しカタツムリ
夢吉
カタツムリ這ふてしたる
萬年青哉 松童
掛けて千すみの宿りぬカ
タツムリ 牛城
辨慶が笈に乗りけりカタツ
ムリ 同
桑の葉を豆粒程のカタツム
リ 紅陽

一册の代金で
御希望通りな
五册の雑誌が
自由に読める
平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次第規則書進呈)

寄書 中山雅司

單刀直入とは、偽りなく
自己の心状を、直裁簡明に
吐露する事を言ふ

親は子を質し子は親を欺
きし、戦國時代は知らず今
日能率増進を、生活の各方
面に感じて来た現代にあつ
ては、萬事を手取り早に
片付ける事が必要になつた
しかし近頃公園のローハ臺
を覗くと『僕は此戀を離れ
て寸時も生活が出来ません
意義なき生存は死です、ご
うか僕を要求を容れて下さ
い、僕は満腔の熱情を以つ

て貴女を愛しています』
『貴郎のお話は能く解りま
したわ、戀愛に對するお説
には、實際妻共鳴してよ、
妻は貴郎が若し刹那の肉慾
から来た、戀でなく、眞に
永久に愛して下さるなら—
—妾』問題即座に解決
これは人間道より畜生道
に墜落した男女の踏むべき
道で、斷じて學ぶべき單刀
直入で無いが、或特殊の場
合を除く限りは、萬事が簡
單露骨を貴ぶやうに成つて
来た、また一方胸襟を開き
肝膽を吐露する事の出来な
い人は、到底腹心の味方が
出来ず隨て社會的活動の、
大成績を擧げる事は不可能
である、片桐且元が臨終の
述懐にかう言ふて居る
『自分は聖家再興の爲めに
苦心慘膽、實に全力を傾け
盡したが、遂に水泡に來し
た、幾世迄の恨事である、
今失敗の跡を考ふる時に、
自分は如何にも心中を人に
隠し過ぎた爲めに、敵味方
兩方より疑ひを一身に受け
て苦肉の計は徒らに破られ
驅せば欺かれ、狙ければ追
はれ肝膽を砕いた甲斐もな
う』斯く人に對して警戒を
過す者は、大にして片桐病
の最後を遂げ、小にして己
れの妻にも愛されな結果
を生む、大なる猛者と單刀
直入の必要爰にある。

(娘りごみ潮)

史戰警復
「唄の城落」
卷九全

話哀代現
「し悲は珠眞」
卷六全



寄書
帝國館
電話五五五番

渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

赤心堂病院
平町田町(電話四七五番)

高久病院
平町田町(電話五一三番)

内科・外科・花柳病科
耳鼻喉科・婦人科
内科・外科・婦人科
デアテルミール光線科
花柳病科・胃腸病科
松村病院
平町南町(電話一〇七番)

寄附者芳名廣告
合計壹千五百貳拾五圓
一金參拾圓
一金參拾圓
明野 勇 吉殿
明野 淺 吉殿
累計壹千五百八拾五圓也
本廣告ヲ以テ領收書ニ代フ
大正十三年七月十四日
大瀧發電所 許可反對 同盟會

青沼醫院
平町城山(舊城跡)三の九
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

品質の金庫は
東京荒木製に
福島縣下代理店
茨城縣下代理店
御申込次第カタロク進呈仕候

高野得助商店
電話三三六番

株買中值

| | | |
|-------|-----|-----|
| 錦格 | 拂込 | 時價 |
| 警城銀行 | 五〇〇 | 五三〇 |
| 平銀行 | 五〇〇 | 七一〇 |
| 警越銀行 | 一一五 | 一〇五 |
| 警城實業 | 五〇〇 | 四三〇 |
| 警城實新 | 三〇〇 | 二九〇 |
| 田村實業 | 一一五 | 一一五 |
| 四倉銀行 | 一七五 | 一七五 |
| 農工銀行 | 二〇〇 | 二四五 |
| 同新 | 一五〇 | 一八八 |
| 百七銀行 | 五〇〇 | 五五〇 |
| 同新 | 一一五 | 一六〇 |
| 七七銀行 | 一一五 | 九八 |
| 郡山電氣 | 五〇〇 | 三六五 |
| 同新 | 二五〇 | 一六〇 |
| 只見川電 | 一一五 | 六五 |
| 植田水電 | 一一五 | 一五五 |
| 好問水電 | 一一五 | 一三〇 |
| 警城建物 | 一一五 | 五〇 |
| 警城製菓 | 二〇〇 | 四〇 |
| 警城製菓 | 二〇〇 | 二五〇 |
| 警城製菓 | 一一五 | 一三五 |
| 植田物産 | 三〇〇 | 二六〇 |
| 平製水 | 二五〇 | 二三〇 |
| 好問製菓 | 五〇〇 | 三三〇 |
| 入山製菓 | 三二五 | 一七〇 |
| 小田炭礦 | 二五〇 | 六〇 |
| 警城炭礦 | 五〇〇 | 四一〇 |
| 同新 | 二二五 | 一八〇 |
| 警城メント | 五〇〇 | 六四五 |
| 同新 | 二五〇 | 三四五 |
| 平運送 | 一一五 | 八〇 |

平町田町 電話三三二番
丸登株式会社
川添房二郎

平電氣を難拮し 路傍宣傳隊の活躍

至る處群衆熱狂し

辯士と共に萬歳を高唱

栗原欣次郎氏に代つて平電氣會社專務取締役の職に就いた野崎滿藏氏は就任早々平全町に亘つて既記の如く『平町民諸君に告ぐ』と題せし印刷物を配附したが是れを一讀する時に於て

具眼者 の總べては會社が自己の利益を圖らんが爲め鹿爪らしき文字を羅列したるに止まり同文書の内容を嚴密に吟味する時に於いて甚だしく平町を愚弄せるものである事が判明した爲め反つて各方面より非常なる反感を招き一片認むべき誠意なき遣り方に對し多數

町民は 激怒したが大瀧發電所許可反對同盟會に於ても此際同印刷物に對する反感の趣旨を充分町民に徹底するの要ありと爲し十二日直ちに廿數名を以つて成る宣傳隊を組織し是れを四方部に分つて高張萬燈を先登に同夜から各町一ヶ處乃至三ヶ處に互り路傍演説を爲し大いに

駁撃を 試み何處に於ても附近に參集せる群衆人垣を作つて轟めき合ひ果ては萬歳を高唱して意氣頗る擧り非常なる成功を博したが今晩も残りの各町にて同様路傍演説宣傳隊の活躍を見るであらう

平町の

貸家賃

稅務署の調査

平町稅務署では所得稅の資料として此程町内外の貸家賃を調査したが九尺二間の裏長屋でも新川町の如きは五圓から急に七圓に値上した家主もある値上は町内にはザラにある一寸した口實があれば値上して疊一枚宛一圓乃至一圓八十錢である

水道投書

野崎專務の文書を反駁

平一町民の匿名を以つて左記の投書が本所に舞ひ込んだから茲に御紹介する

平電氣株式會社專務取締役野崎滿藏氏から發した印刷物の中に

私利私慾の爲めに町民諸君の利益と幸福とを奪ふものでないことを尤もしく前提して最後に自分の經營する利益を永久に放棄するに忍びない(是れが本意)是非諸君の御高慮を願ふと實にツウツウしいにも程がある、高慮も糞もあるもんか、殊に小田炭礦株式會社の代理とはなんだ(手續上の不備悪く云ひば

英國世界一週機が

勿來海岸に不時着陸

故障を修理して昨夜八時更らに湊へ飛ぶ

十三日霞ヶ浦を出發し湊に向つた英國世界一週機は途中、本縣勿來海岸上空に差しかつた時機械に故障を生じ八時十分不時着水したが同所青年團在郷軍人等の應援を得て機體を修理し八時四十九分出發した

雨が欲しい

當分は降らぬ

一雨降つて呉れればいゝがなあと都も鄙もをしながら雨を待つてゐるが一向にお天氣は變らない灌溉水は勿論飲料水に迄困つてゐる地方が澤山ある待たる雨は何處へ行つたか氣象臺の技師は天をながめ乍ら語るの北へ〜と行く灰色の雲を見給へあれが悪いのだから

カテイラン

絞類を伸ばさず縫ふ法

すべて絞はあの絞つたまゝヒダの残つたところに趣があるのですから、なるべくひだを伸ばさぬやうに仕立てなくてはなりません。しかし浴衣などは着てゐるうちに絞を伸ばさず縫ふ法

頭を破る

血塗れの大喧嘩

平町七丁目荷鞍職鈴木半次郎(五五)は昨日午後四時四十分頃六丁目宿屋清水屋裏にて馬車挽志賀幸太郎と大喧嘩を始め下駄を振つて幸太郎の頭部を強打した爲め頭蓋骨碎け其場に悶倒全く昏睡状態に陥りし依り酒井病院にて應急手當を受けしも生命覺束なかるべく一方加害者半次郎は其場にて逮捕され平署に於て嚴重取調中

四倉小學校

上棟式

増築工事完成

石城郡四倉町小學校増築工事は平町堀江工業株式會社にて請負工事中なりしが十日上棟式を舉行町會議員其他關係有志多數出席盛大であつた

兒童と暑中休暇

かなり眞剣な問題

飛廻つた上に

大聲で歌はしめよ

もう間もなく小學校の暑中休暇が始まるが兒童の休み中の毎日を如何にして過ごさしめたならばいゝだらうか、これはかなり眞剣な問題である、某雜誌に掲載された、慶大醫學部の岩井博士のお話を纏めて紹介する

健康兒

には朝七八時頃から一時間位勉強させるのはいゝだらうが神経質で朝起き際に怒つたり不機嫌な様子を見せたりする子供には朝の勉強は絶対に禁じ夕方短時間機に向はせる方がいゝ

九時頃

からは全然遊びの時間としその遊びも水遊び等が最も適して居る水遊びの際幼い子供が水を飲まないやうに特に注意する必要がある、裸に腹あて位で長く水中に浸るやうなことをしないやうにして焼くやう

炎天の

外は避けしめた方がいゝ

晝食後一時間から三時頃までの間を晝寝時間として一時間乃至二時間休ませるのは總ての点からして効果がある三時から五時頃まで又遊び時間とし暑い間は

水遊び

も悪くない

が何か飛び廻るやうな運動をしてうんと汗をかきやうにしたらごうかと思ふ汗をかいた後は水なり湯なりでよく身體をふき亞鉛化澱粉をすりつけて置けば汗も出るやうなことはない

夕食後

子供の寝る前に一家團樂して蓄音機をやるなり唱歌でも合唱する

佐瀬課長

水道問題調査

佐瀬本縣農商課長は大瀧發電所問題に關する某々用件を帶び一昨日來平調査を開始した爲め同發電所反對同盟會よりは大原長太郎植頭鶴松川崎文治が昨日郡衙内

に課長を訪ね種々陳情した

波立藥師祭禮 四倉町

日本祭を執行の筈

小田炭礦協議 小田

炭礦にては昨日大瀧發電所

權利放棄の件に關して重役

會を開いたが議案易に決せ

ず本日引續き住吉屋本店

にて開いて居る

澤村墓前祭 石城郡

平窪村にては本日午前十時

から澤村勘兵衛墓前祭を執

行した

チブス豫防 平警察

署にては時節柄傳染病を警

戒すべく來る十五日署員全

部に對し腹チブス豫防注射

を行ふ由